

第12回全国家読 ゆうびんコンクール

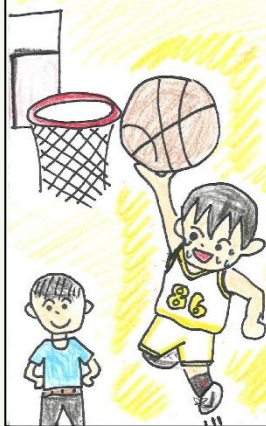
教育長賞



この本は、バリになるとマリアササの神童が見えるお言ひだよ。
ぼくはこの本を言読んで、人に勝負なり一生けん命がふはるご
が大事なんだと気づいたよ。ぼくはバスケットボールで一番になり
たいけれど、柔道でも試合でも一番になたことがない。でも
パパはいつも「がんばれ!」とゆうえんしてくれて、一番じゃなくても「よく
がんばったね、ってほめてくれるよね。パパの「がんばれ!

は一番になれてことじなく
て、自分に負けず一生懸命
やれ、ってことなんだね。
パパ いつもおうえんして
くれて、ありがとう。ぼく
はこれからもうがんばるか
ら見守っていてね。

はるとより



ちいさなあなたへ

花へ

この絵本は11年前。
花が産まれてすぐの頃に、たまたま本屋さんで出会いはじめに。
何気なくページをめくったら、涙が出そうになって。
「いつか花に渡そう」と思って買った、大切な絵本です。
ずっと家の本棚にあって、読み聞かせるような絵本
ではなかったから、今回花がこの絵本を選んで驚きました。
久しぶりに読むき、かけをくれて、ありがとう。

あんなに小さかった花が、もう1歳。
最近、少し距離を感じる。 — 3

こともあるけれど、

これから先も花は
とんとん大きくなっていくね
いつか花自身の生活が
始まる日が来るかも
しれない。

系結婚して、子どもを産む日も
かもしれない。

でも、たとえどんなに遠くに行っても、
“ちいさなあなた”は、ずっとお母さんの中に
いるよ。
そして、いつか花が家を出て行く日が来たら、
この絵本も、連れだって行ってくれたら嬉しいな。 母より



100万回きたね

かえくみんない
ぼくは100万回
生きたねこを
読みました。
ねこは100万回
も生きてたわ
さんのかわい
いからね、せ
んせうねい
ちゃん。

でも、白いねこの子
どもたちといたときは
とてもあわそいでした。
ぼくはこのおうすに
いって、大切な人とな
りかかっていた。たか
だかと思はれた。たか
ら、ぼくもかきみん
なとすべからず、大
切にしてみたいです。

まさきより



さおちゃんへ

あ、という間に小学5年生だね。さおちゃんは「最上」文学がすらすらと並み厚い本を読むようになって
その姿を見ると本を熱心に読んでいる自分を思い出すよ。本は沢山のものを取読してくれる。さおちゃん
も沢山の本のすてに驚いていると思う。そんなさおちゃんにはもう少し大きく、「いつか読んでほしい
本があるんだ」「昼の上で眠る」という本だよ。この本は私にとって「いるな」と感じて考えさせられるもの
だ。たまたまこの内容は、小学生的ゆえにちゃんと2つ離れた師のまゆちさんの2人の姉妹が主人公だよ。
そして、ある日突然、まゆちさんが失われるシーンがあるんだ。失踪した師をさおちゃんが尋ねてきて、やに
ちゃんの気持ちをかきたらしめながらつけられたいって今のままでの心かと思えた。そこから想像してみたら、
ふー、妹みたいな考え方だね。そう考えると普通だと感じている生活は、当然何ではない、日常の大変さ
に気づいた。今年受験生の私は、夢に行きたい大学に行ったりして、いかに余裕を持って生きてさおちゃんよ
きつてあげてほしい。だからさあ、でもさおちゃんも私も見て全部かんたんになりましたよ。って元気が
よかったよ。ありがとう。さおちゃんが生まれたこと知ったことは、本当に本当に嬉しかった。だからこれからの
毎日はさおちゃんとおどろき時間をもっとしたい。

それから、いざ、さあ、姉妹もご一緒に遊ぶことが、ゴブレンクスを抱えている場面もあんなに、姉妹といっしょ
性なところを感じたり、ピルカがつたげれば、どんな必要はないか？ さあ、中には持っている、ないもの
が沢山ある。例えは、とてもユークン発想が出てきた。料理とか、すでに周りから受け取れたもの、
一つ一つのさあ、個人の個性だよ。自分に自信を持てね！

最後に、さあ、なんはいいものに支えてくれた。手紙を
書いたり、優しくしてくれた。一緒に遊んでくれたり、励ましてくれたり、
その全部が私の力になっている。妹はいままでさあ、
妹方でお世話しているよ。そして、この妹についてくれてありがとう。
さあ、んと過ごしたこれまでの時間もこれから先の時間も
宝物だよ。さあ、ん、これからも一緒にたくさん物語
をつづいていこう。だいすき！！



100



麻帆人

母「はなちゃんのみそ汁」の
 じつは、お母さんもこの本を
 読んでごころがあります。(はじめて
 この本を読んだ時、なみだが
 でそになりました)。はなちゃん
 の強さに心をうたれたにから
 ず。麻帆は、この本を読んで、
 お母さんのおつづいをしよう
 と、くれたんだね。
 ありがとう。
 子ども達の気持ちに本当に
 あったかくて、心強くなって
 読めます。麻帆は小さいころ
 からおつづきが大好きで、
 よく「何かおつづきたい」と
 いじどうにやっていたんだね。

で、お母さんがいそがしくて
「今はいいから」と
おちづいをこきおろしたことも
ありました。ごめんね。
それでお母さんは、今でもおちづい
をいそがしくおねね。
お母さん、もうやめなさい。
本当にいろんなことが去年に
できようになつたなあと思ひます。
おちづいをしてくれて、ありがたう。
おちづいをしていまして、跑つてくる
気持ちで、お母さん（はと）、ても
うれいです。これからもういっしょに
たくさん、おちづい、理しなうね。

お母さんより

